

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0270600356		
法人名	有限会社 十和田だいち		
事業所名	グループホーム はなは		
所在地	青森県十和田市大字藤島字中道52-1		
自己評価作成日	平成30年7月30日	評価結果市町村受理日	平成30年11月28日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「心が癒やされ安らぎのある家庭的な家(はなは)」を基本理念として掲げ、平成14年の開設から16年経過し、開設当初からの入居者様は94歳でおられます。代表者の思いである、入居者様を敬い、尊敬し、毎日を安心して暮らせるということを職員が一丸となって取り組み、入居者様の生活の質の向上や笑顔が絶えず、ご家族が安心して任せられる家となるよう、日々努力しています。  
地域の皆様に支えられ、今まで穏やかに過ごすことができました。また、地域の方々には関連事業所の事業への作品の貸し出しやボランティア等で協力していただき、現在の「はなは」を確立させることができました。これからも慢心することなく、今まで助けていただいた方々に還元できるホームとなるよう、努力して参ります。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 青森県社会福祉協議会
所在地	青森県青森市中央3丁目20番30号
訪問調査日	平成30年9月20日

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) ○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12) ○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

## 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	基本理念を玄関や事務所に掲示し、職員は意味を理解・共有している。毎年理念の振り返り、職員個々の目標を設定し、前年度の目標を振り返り「はなは」の理念や個人目標を意識しながら、日々のケアに繋げている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	開設時より町内会に加入し、地域の一員として総会や催事毎に参加し、地域の方が日常的に野菜を持って来てくれたり、入居者様と話したりと交流を持っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議で入居者様の支援や取り組みを報告し、日々の行事等の交流でも認知症の理解が深まるように努めている。また、介護職員初任者研修の実習の場として提供している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議には地域包括支援センターや地域の方々、ご家族に参加いただき、入居者様の様子や活動内容等を報告している。また、参加者からいただいた情報や助言等は積極的に取り入れ、サービスの質の向上に活かしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市担当者とは分からない事をメールや電話でやり取りをし、助言や指導をいただいているほか、今年度からは運営推進会議に地域包括支援センターの職員に参加いただき、相互関係を築けるよう努力している。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関する研修や勉強会で学ぶ機会を設け、入居者様の思いに寄り添うケアを心がけている。また、今年度は指針やマニュアルを再構築して振り返り、周知している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年度初めに勉強会を持ち、不適切なケアがないか振り返っている。「虐待は絶対にしてはいけない」という思いを意識し、入居者様に不快な思いや無理強いしないケアに取り組んでいる。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	年度初めには全職員で権利擁護に関する制度について振り返り、勉強会を実施している。また、現在、日常生活自立支援事業を利用している方がおり、職員は内容を理解し、支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前の見学や相談に応じ、契約の際には十分な時間を取っていただき、入居者様やご家族の立場に立って、丁寧に分かりやすく説明するように心がけている。また、契約内容の改訂時は都度、ご家族に説明し、了解を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日頃より話しやすい雰囲気づくりを大切にし、言動や行動、表情等から思いを汲み取るようにしている。ご家族とは面会時や電話、便り等で入居者様の様子を伝え、気兼ねなく相談できるような関係作りに努めている。また、玄関には意見箱を設けている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回、定期的にスーパーバイザーを交えて職員全体会議を行い、全職員が出席し、意見を出し合える場を設けている。昨年は職員の異動があったものの、日頃より交流を持っているため、入居者様の混乱はなかった。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員がやりがいと向上心を持って働くことができ、家庭との両立が叶うよう、休みの希望はほぼ受入れ、3ユニット間で協力し合って取り組んでいる。また、昇給や給与面の処遇、健康診断、インフルエンザ予防接種等、職員が働きやすい環境づくりに配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月1回の全体会議では全職員が参加し、各ユニット持ち回りで担当者を決めて勉強会を行い、資料作りや発表する機会を持つことで職員自身のスキルアップにも繋がっている。また、母体病院が主催している介護職員初任者研修を受講し、資格取得に向けて取り組んでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会に加入して資料をいただくほか、研修会で交流を図っている。また、他のグループホームとの交流があり、お互いに入居者様が楽しめるように行事を企画し、職員の質の向上に繋がっている。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時のアセスメントを基に、入居者様の環境の変化による戸惑いや不安な思いを察し、今までの暮らしとかけ離れることのないように配慮し、意向に沿った支援ができるように状況の把握に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居者様やご家族が不安に感じている事を抱え込まないように、相談の際には十分な時間を取り、意向を把握し、思いを受け止め、一緒に支えていくことを伝えている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居者様やご家族の意向、アセスメントにより何を必要としているかを的確に見極め、ケアマネージャーや関係機関と連携し、情報を収集しながら今までの生活を大切にしたい支援を心がけている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様一人ひとりのできる事を見つけ、茶碗拭きやタオル畳み等、職員と一緒にっており、家族の一員として生活を共にしている工夫をしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の面会時には入居者様の様子を伝えるようにして、相談や協力し合う体制を取っている。ご家族が対応できる事は(受診等)、なるべく関わっていただき、家族との繋がりを大切にしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族や友人の訪問の際には、居室にてゆっくりと過ごしていただいている。また、ホーム以外の方とも接することができるよう、馴染みの美容院の利用等の支援も行っている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士の関係を把握し、会話の中に職員も加わりながら作業を進めている。また、体操やレクリエーション等、無理に進めることなく、お互いの距離を持って、良い関係づくりに向けて支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後も相談に応じることを伝え、新しい環境の中で混乱を招くことのないように、情報が必要な時には承諾をいただいて情報を提供し、安心してサービスが受けられるように支援している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者様の日頃の仕草や行動、会話の中から希望や意向を汲み取り、共有・共感できる事は実現に向けて支援に努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居者様のプライバシーに配慮しながら、ご家族から情報を提供してもらったり、入居者様の声に耳を傾け、安心して生活できるような、より良い環境づくりに努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の行動や変化、入居者様一人ひとりの状況を見逃すことなく、職員は常に把握して記録し、全職員で共有できるように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の入居者様一人ひとりの言動や行動等を観察し、思いの把握に努め、ご家族の意見等も取り入れながらケア内容を検討し、入居者様の思いに沿った介護計画となるように作成し、支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活の中での言葉や表情、エピソード、健康状態等をケース記録に記入し、朝・夕の申し送りや伝達ノート、職員会議等で情報を共有し、ケアの見直しに繋げている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	病院受診については、必要に応じてご家族と相談しながら対応している。また、遠方のご家族が多いため、美容院介助や生活用品、衣服の購入、各種手続き等、ご家族と連絡を取りながら支援している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内会の方々の理解により、様々な催しへの参加や運営推進会議への出席、災害時の協力体制、ホームのイベント参加等、協力をいただき、地域の中で楽しみを持って安全に生活できている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	運営者でもある主治医は毎朝ホームを訪問し、入居者様一人ひとりとコミュニケーションを図り、体調面や不安事の相談に応じて、入居者様の安心に繋がっている。また、受診した際の結果は都度、ご家族に報告し、状況に応じて他の病院受診介助や送迎介助も行っている。		
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師は週2回の勤務ではあるが、24時間連絡や対応ができる体制となっている。様々な処置や排便コントロール、健康管理を行い、情報を共有し、必要時には主治医と連携して入居者様の不安解消や健康維持に努めている。また、訪問看護ステーションとも契約しており、看取りへの対応ができる体制を整えている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は身体状況や生活状況、認知症状等、情報を提供し、定期的に面会して状況を把握している。また、病院やご家族と情報を交換しながら、安心して治療が受けられ、早期退院できるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ホームとして「看取りに関する指針」を基に、できる事やできない事を説明している。入居者様一人ひとりの状態は異なるため、説明では納得しても、その時になると不安を示すご家族もいるため、再度、十分に時間を取って話し合いを行い、気持ちに寄り添い、その上で安心して最期を迎えられるように配慮、支援している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時のマニュアルを整備し、常に目につく場所に掲示しているほか、ミーティング等で看護師も含めて対応の再確認をする等、迅速な対応ができるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災マニュアルと非常災害(河川、水害)対応マニュアルを作成し、年2回、総合避難訓練と水害時避難訓練を実施しており、水害時避難の問題点を把握し、改善している。災害時には消防団員や各関連機関と連携を取り、協力を得られる体制を整えている。また、災害時の備蓄品も用意している。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日常生活の行動や会話から入居者様個々の考え方や拘りを受け止め、入居者様のプライドを傷つけないような言葉かけや対応に配慮している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	思いを言葉にできない方でも、笑顔等の表情を読み取ったり、コミュニケーションを図ることで、同意や拒否の動作を感じ取り、思いに寄り添う努力をしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホールでテレビを見て過ごしたいのか、居室で趣味の本を読んだり、昼寝をして過ごしたいのか、その時々々の状況と入居者様の意思を聞き取り、希望に沿うようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	おしゃれに興味のある入居者様には、衣服を選んで過ごしてもらい、困難な方には清潔感を保てるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	畑で収穫した野菜や町内の方からいただいた野菜の下処理等を入居者様と一緒にを行い、どのような料理にしようかと会話を楽しんでいる。また、入居者様の好みの魚料理を献立に多く取り入れている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者様個々の食事摂取量と水分摂取量を記録し、食欲がない時は好みの食べ物や飲み物で補っている。また、嚥下機能が低下している方にはミキサー食での対応や好みの味で提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、自力で行える方には声がけをし、難しい方には入居者様個々の状態に応じて支援している。また、月1回、歯科衛生士と職員で口腔ケアの勉強会を行い、学んだ事を実践している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	入居者様の排泄パターンを把握し、事前誘導を行い、失禁の軽減の工夫を行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	下剤を服用している方は排泄状況を医師や看護師に報告し、排便コントロールを行っている。また、食事面でも乳製品や野菜、水分を多く取るように献立に取り入れている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた支援をしている	入浴時は入居者様の意思確認を行い、入浴したくない場合は時間帯や日程を変えて対応している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	気温や気候に合わせた寝具の調整を行い、安眠に向けている。また、寝付けられない方には話し相手になる等、睡眠に向けて対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬の際には名前や日付等の声だし確認を行い、複数の職員でミスがないか確認し、チェック表にも記入している。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	楽しみ事として定期的に行われる関連施設のカフェや習字教室、フラワーアレンジメント教室、塗り絵教室等に参加している。また、日常的な役割として茶碗拭き、タオル干し、洗濯物畳み、メニュー書き等、力が発揮できる場面を提供し、生活の中に張り合いができるように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	関連施設の行事や習字教室、フラワーアレンジメント教室に参加したり、入居者様個々の身体状況に合わせて町内を散歩したり、ドライブ等で戸外に出る機会を支援している。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族から了解を得て、ホーム管理となっている入居者様は毎月、収支明細表に領収書を添付し、確認印をもらっている。入居者様で少額の小遣いを持っている方には、外出時に支払いしていただくようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族から電話等がある場合は取り次ぎをしたり、贈り物等があった時にはお礼の電話や手紙等、いつでもやり取りができるように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	エアコンや暖房、換気等で室温を調整し、入居者様が快適に過ごせるようにしている。また、共有場所から四季折々の景色が見えたり、展示物を飾る等、楽しんでいただいている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールや食堂はのんびりと会話しながら楽しく過ごせるように工夫し、レクリエーション等も取り入れながら過ごしていただいている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者様の状況に応じて、使い慣れている物の持ち込みやご家族の写真や手紙等を置き、安心して落ち着いて過ごしていただけるように配慮している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	移動が安全にできるように、手すりの設置や居室、トイレ等は分かりやすく表示する等、工夫をしている。また、入居者様の状況によってはご家族と相談し、福祉用具等を利用して、できるだけ限り入居者様の力で安全・安心に生活できるように支援している。		